

福岡大学附属若葉高等学校

2019年5月

2018年度の事業計画と事業報告に対する自己評価	1
評価項目ごとに、反省・課題を確認し、目標と具体的取り組みに対する到達度を、 管理職・業務担当者が4段階（A～D）で評価したものです。	
2018年度の取り組みとまとめに対する自己評価	2
評価項目ごとに、反省・課題を確認し、目標と具体的取り組みに対する到達度を、 管理職・業務担当者が4段階（A～D）で評価したものです。	
2018年度の事業計画に対する学校関係者(保護者)評価	5
各評価項目についてご意見をいただき、その到達度を4段階（A～D）で評価して いただきました。本校生徒の保護者による後援会の会長・副会長ならびに評議員の 皆さまに評価を依頼し、23名の方から評価をいただきました。	
2018年度の取り組みに対する学校関係者(保護者)評価	10
各評価項目に関するご意見をいただき、その到達度を4段階（A～D）で評価して いただきました。本校生徒の保護者による後援会の会長・副会長ならびに評議員の 皆さまに評価を依頼し、23名の方から評価をいただきました。	

到達度評価

- A：目標に十分到達している
- B：目標到達にいま一步である
- C：目標到達に一層の努力が必要である
- D：目標到達には程遠い

評価項目	事業計画	事業報告	自己評価
学校改革の推進	2019年度からの男女共学化に向け万全な準備を進めるとともに、2018年2月に公表した「福岡大学附属若葉高等学校教育ビジョン」に基づき、全校一丸となって学校改革を強力に推進し、募集定員の充足を図る。また、2022年度に予定している学校移築に向けた準備を着実に遂行する。	2019年度からの男女共学に向けたソフト・ハード両面における基本的な整備を進めました。募集定員の充足については、広報部を中心とした生徒募集活動の成果により、志願者数が前年比2.7倍となり、入学者数も募集定員の2倍強となる815人となりました。	B
高大一貫教育の一層の充実	本校の発足以来8年間にわたり本校の教育の柱としてきた高大一貫教育プログラムの検証と評価を行う。大学との連携を一層強化することによって、大学教育で必要とされる「基礎学力」や「人間力」を確実に養成するプログラムのさらなる充実を図り、本校の独自性と優位性を強化し対外的訴求力を高める。	若葉フォリオの内容を再検討し、将来的なe-ポートフォリオへの移行について検討を開始しました。また、学力の3要素の伸長を目指した教育力向上に努め、多くの教員を校外研修等に派遣しました。2018年度からの附属推薦入試制度の変更に伴い、入学前教育プログラムの内容を見直し、新たな教材の導入と大学教員による講話を新設するなど、より効果的なものに変更しました。	B
グローバル教育の基盤整備	2017年度に策定した「グローバル教育ビジョン」に基づき、修学旅行を海外での研修旅行に切り換るとともに、海外の学校との交流協定締結を進めるなど、グローバル教育の充実を図る。	グローバル教育を全校的に展開するため、シンガポールへの修学旅行を実施しました。また、新たにシンガポールの日本人学校と交流協定を締結し、本校教員の派遣が決定しました。韓国仁川新峴高校とは相互に生徒・教職員を派遣し、交流を深化させました。グローバル教育の展開に大学国際センターの協力を仰ぐため、両者間でワーキンググループを設け、連携強化を図りました。	B
全人教育の基盤整備と実践	全人教育を推進するため、正課教育の充実とともに新たな部活動の検討を含めた正課外活動の拡充と活性化を図り、生徒会活動や各種学校行事への生徒の積極的・主体的参加を推奨する。	全人教育推進のため、特別教育活動、特に体育祭や文化祭等では生徒会が中心となって取り組めるよう、生徒会活動を支援しました。その結果、生徒会が一部を担うようになり、新たな企画等も積極的に提案するようになりました。男女共学化へ対応するため、男子生徒の部活動として野球、サッカー、ハンドボール部を新設することにしました。また、人権教育を始め、生活全般に関わる諸課題については、校外の講師を招いて講演会を開催しました。	B
授業改善への取組の強化	生徒の主体的・能動的な学習の伸長を図るため、アクティブ・ラーニングの一層の推進を図る。特にICTを活用した授業実践のための環境整備を進め、授業改善のための研修等を強化する	アクティブ・ラーニング型授業の一環として、ICTを活用した授業を実践するため、タブレット端末を60台導入しました。また、タブレット端末活用のための校内研修を全教員を対象に2回実施しました。更に、アクティブ・ラーニング型授業を実践する先進校から講師を招き、2回の研修を実施しました。その結果、多くの教員がタブレットを使用した授業に取り組んでいます。	B
学校運営強化のための組織の再編と規程等の見直し	学校運営の強化を図るため、学校運営組織及び審議組織を見直す。これによって持続的な学校改革を機動的に遂行する。また、運営の適正化・円滑化を図るため、諸規程等を見直す。	大学の教育職員を学校長に任命するとともに教頭を2名体制として2年が経過しました。それにより管理職のガバナンス機能が強化され、迅速な意思決定が図れるようになりました。学校改革に伴い組織を強化するため、諸規程の整備を進め、順次改正しました。	B

評価項目	目 標	具体的取り組み	まとめ(反省・課題)	自己評価
<p>教 務 学習指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習環境を整え、積極的に学習に取り組む姿勢を育み、基礎学力を向上させる。 ・生徒の主体的・協働的・探求的な学びのため、教員個人の努力だけではなく、各教科や各コースの研修を深め、チームによる、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の職業を意識して学習目標を定めさせ、その実現のために毎日こつこつと学習に取り組むことの大切さを理解させる。 ・若葉フォリオを活用し、学年ごとの家庭学習時間目標を設定して検証し、学習習慣が確立されるよう粘り強く指導する。 ・新しい学力観・新学習指導要領を研修し、教員の資質向上に努める。 ・教員が「分かりやすい授業」の研究に努め実践する。その際にアクティブ・ラーニングの手法や、ICTを活用していく。 ・定期考査の平均点の適正化をはかるため、教科会議でしっかり検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度はICT教室を南館2階に設け、1学期にタブレットと教材ソフトに関する研修会を、全教員を対象に2回実施しました。2学期から徐々に各教科でICTを取り入れた研究授業やアクティブ・ラーニングの実践が始まりました。2学期後半になるとICT教室の稼働率は40～50%に上昇しています。ICT機材に慣れた先生方が中心になっている傾向がありますが、来年度はさらに研修会等を重ね、全教員が使いこなせるようにしたいと考えます。 ・ICT教室以外でもパソコンとプロジェクターを活用した授業が理科等で進められています。授業の内容が精選され、スピードアップも図れます。施設面の充実・改善が今後の課題です。 ・各教科の研究授業でも、従来からの授業形態とは異なる、新課程の学習指導要領にある「協働的な学び」を踏まえ、グループによる学習活動や積極的に意見を発表する形態の授業が増えています。実技教科もアクティブ・ラーニングの手法をこれまで以上に取入れ授業改革に取り組んでいます。 ・授業改革と併せ、学習到達評価としての定期考査の問題が適正かどうかについては、考査の平均点の適正化とともに今後議論を深める必要があります。 	<p>B</p>
<p>進路指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入試改革を見据え多様化していく入試状況に対応しつつ、その後の変わりゆく社会で生き抜く力を養う。 ・キャリア教育という観点から生徒一人一人に対してきめ細かな進路指導を行い、コースのコンセプトに基づいたそれぞれの目標とする進学先の合格を目指す。 ・現役による国公立大学の合格者数25名、また難関私大への合格者数の増加を目指す。全体的には福岡大学を含めた四年制大学への進学率増加を目指す。 ・自分の考えを表現できる力や文章力をつけるための長期的な取り組みを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学入学だけを目的とせず、正しい職業観を育成し、働くことへの興味・関心を高め、目標に向けて学習意欲が向上するキャリア教育を計画的に展開する。 ・進路実現を目指す上で必要となる情報を常に発信し、適切な時期に適切な内容の進路ガイダンスを計画的に実施する。 ・自分の考えや意見をまとめたり、相手に分かるように伝えたり、論立てた説明が出来る力を養うため、1年次から年間を通した指導を行う。 ・進路決定に必要な基礎学力、および応用力を養成するための課外補習を計画的に展開する。また、校外模試の計画的実施とその結果分析を活用し、さらなる学力向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年のうちに職業を調べ、進路に結びつけられるように、進路適性検査に基づくキャリア・ガイダンスや、ふれあい看護体験、学習合宿でのキャリア・ガイダンスなどを実施しました。 ・「進路のしおり」「進路通信」の発行や特進コース対象の保護者説明会、ゆめナビライブ(大学合同説明会)や国際コース対象のグローバル・外国語・国際系大学フェアへの参加など、校外の進路ガイダンスの案内等により、必要な情報を適時に提供し、適切な進路ガイダンスを実施しています。 ・1年次から年間を通した小論文指導を行い、考える力、書く力を養成しています。小論文模試や小論文・志望理由書について繰返しガイダンスと指導を行いました。3年生には小論文入試対策を実施しています。 ・今後の課題としては、3年生の進学・福大コースの2学期期末後の課外について、コースの意見を聞いて検討します。また、推薦で進路が決まった生徒に対する対応も検討します。 ・高大一貫教育での課外を入試対策のみに捉えず、大学入学後につながる基礎学力の養成となる課外授業を検討していきます。 ・附属校推薦や指定校推薦に関する情報を、担任だけでなく全教員が共有するようにしていきます。 	<p>B</p>

評価項目	目 標	具体的取り組み	まとめ(反省・課題)	自己評価
中退防止 いじめ防止	<ul style="list-style-type: none"> 生徒個々の状況を共通認識するとともに、早期に適切な手立てがとれるよう主体的に働きかける。 いじめ事案の発生が疑われるときは迅速に問題に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報を共有し早期に対応することで、転学・退学者を0にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年間の転退学者は10名で、昨年よりも減少しましたが、目標は達成できませんでした。中途退学の理由は心因性によるものが多く、生徒一人ひとりに応じた指導を進めなければなりません。 生徒の悩みを引き出し、親身になって根気強く向き合い、原因究明には家族・友人・他の教員の力も借りて解決へ努力します。 クラス担任以外の教員・学年主任・生徒指導部・管理職・養護教諭も、躓いている生徒に対し救う気持ちを持ち続けます。 中途退学者・要観察者が多い1年生では、クラス及び生徒の状況を担任・教科担任・学年がいち早く察知するよう努めます。 問題の早期発見を可能にするため、生活アンケートの早期実施を検討します(現在の7月実施を5月下旬～6月初旬に)。 文部科学省の「いじめ防止等のための基本的な方針」改定にともなう「福岡県いじめ防止基本方針」の改訂にともない、本校の「いじめ防止基本方針」を改定し、ホームページに掲載しました。 	B
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣を確立させる。 自尊感情を高めるための諸活動(生徒会・行事・常時活動等)を活性化させる。 問題行動・規則違反等を未然に防ぐ為に、日常の生徒指導を徹底すると共に教員間の連携を更に深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の規則遵守、礼儀やマナーを大切にした行動習慣。 情報モラルを高めるための啓発。授業規律の徹底。 生徒会・専門委員会等を通じ生徒主体的な活動の活性化。 学校・学年・学級のリーダー育成。行事への生徒の主体的意欲的参加。 学校外や地域への積極的貢献と発信。 生徒指導に対する教員の姿勢・取り組み・考え方の浸透。 挨拶・清掃活動の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> 4月以降、マナー指導、毎月の風紀指導、登下校指導、遅刻者指導、昼休校内巡視、授業調査などを実施し、規則遵守・マナーの向上を図りました。 4月から登下校時の携帯等の所持を許可したことから、指導を強化しました。 薬物乱用防止、暴力追放、飲酒運転撲滅などの講話を実施しました。 生徒の自主的活動を強化するため、生徒会の行事への参加や集会指導、生徒会による美化コンクール、授業調査等を開始しました。 ラブアースクリーン運動などの地域貢献、各種キャンペーンに参加しました。 生徒の問題行動は生徒指導部と学年との連携、迅速な学年内での対応により指導措置件数の減少がみられました。SNS関連が多くを占めています。 	B
保健指導特別教育活動	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活をより豊かで充実し活気あるものとする為に、学校行事への積極的な参加を促し、生徒主体の運営ができるように努力する。 運動部の更なる躍進と、文化部の活性化を図る。 健康の維持増進と疾病予防の大切さを理解させ、日々の健康管理の姿勢を育成する。 部活動への加入者が有意義な活動ができるように努力する。 火災・地震等緊急災害時に冷静に判断し安全に行動できる訓練をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育祭・文化祭等の実施について、早期に実施案を発表し活動に取り掛かる。また昨年まで以上に生徒中心の活動ができるよう教員は側面的に支援に徹し、成功へと導く。 部・同好会活動の活動状況を調査し、活動が活発に行われているかを把握して是正をすすめる。 全ての教員が、顧問・副顧問となることが望ましく、部の運営は継続的かつ安定的な活動を狙いとする。 保健講話や保健だより(保健委員会活動)を通して、健康への関心を高めさせる。 防災訓練を通して、生徒・教職員共に防災意識を高めさせる。 各部署より出された反省・課題を検証し、改善を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育祭・文化祭は全教職員・生徒が一体となって取り組み、成功に繋がりました。文化祭では後援会の皆さまのバザー出店や警備業務への参加が実現できました。 運動部5部活(ソフトボール・陸上・水泳・バスケットボール・ダンス)、文化部2部活(放送・津軽三味線)が全国大会・世界大会で活躍しました。部・同好会の加入率は約72%でした。 目、歯の未治療者へのオリエンテーションを2回実施し、完了率が向上しました(完了率、目：84% 歯：76%)。 インフルエンザの予防について集会や「保健だより」等で呼びかけました。 防災訓練を4月(地震を想定)10月(火災を想定)の2回実施しました。 「防災マニュアル」を一部改訂しました。 	B

評価項目	目 標	具体的取り組み	まとめ(反省・課題)	自己評価
研 修	<ul style="list-style-type: none"> 「新教育ビジョン」の実現のために教員の資質・能力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校改革推進を目指す「新教育ビジョン」に沿って、教員研修を充実させるため、新設した教員研修委員会において研修のあり方等について再検討し研修体制を再整備する。 アクティブ・ラーニング及びICTを活用した授業への取り組みを強化するため、研修、見学等を重点的に実施する。 年度内に、全員が必ず1回以上何らかの校外研修に参加する。 校外研修参加者は終了後、必ず研修報告書(出張報告書)を提出するとともに、校外研修の成果を校内研修等において職員全体にフィードバックするように努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 「新教育ビジョン」で本校教育の柱の一つとしたグローバル教育の充実を目的として、新たな海外研修制度を設けました。シンガポール日本人学校との交流協定を締結し、文部科学省の教員派遣制度により2019年度から3年間、同校に白澤教諭を派遣することになりました。 2019年度からの共学化に向け、職員全員を対象とした附属大濠高校生徒主事による「男子生徒の指導」、石崎杏里氏によるLGBTQについての職員研修を実施しました。 ICTを活用した授業への取り組みを強化するため、職員全員を対象としたICT研修(2回)、シンガポール日本人学校事務局長高橋勇進氏、及び聖カタリナ学園高校教頭平原澄夫氏を招き、講演による研修を計2回実施しました。 今年度は県教委による新学習指導要領についての研修が実施され、教員全員が参加しました。 各教科や校務にかかわる各種校外研修への各教員の参加状況は、昨年度とほぼ同様でした。 研修報告書(出張報告書)はほぼ提出されました。 	B
広 報 情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 各コースの定員を上回る入学者を確保する。 入学者400名 受験生 専願260名、前期600名、後期30名(歩留率0.2~0.25を想定) 	<ul style="list-style-type: none"> 高大一貫教育の成果と共学化及び3コース制の導入を前面に打ち出し、中学三年生とその保護者に本校の魅力を訴求する。 高大一貫コースに専願受験者を多く集める。 スーパー特進コースの国公立大学への現役合格率の高さや福岡大学への併願推薦で県立上位校との併願受験者を多く集め、高い歩留率を狙う。 グローバルコースを中心に海外3か月研修をはじめとする様々な留学制度で専願受験と県立上位校との併願で高い歩留率を狙う。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種広報イベントでは予想をはるかに上回る数の来校者があり、職員数や会場の収容人員、椅子の数など対応が困難なレベルになりました。受付期限を明確に示すなど人数制限を設けることも検討する必要がでてきました。なお、今後も中学校・塾の先生・保護者向け説明会は実施します。 入試システムとしての英語検定優遇措置について、担当者が理解していない中学校がありましたが、多様化する入試制度やグローバル人材育成の観点から今後も継続したいと考えます。 福岡大学への附属推薦枠の拡大とともに、関東、関西の有力大学の指定校推薦枠の獲得、及び九州大学をはじめとする国公立大学進路実績の向上に向けた取組を具体的に出し訴求力を高めます。 帰国子女に対応した入試制度を検討します。 	B

※ 評価項目ごとに、反省・課題を確認し、目標と具体的取り組みに対する到達度を、管理職・業務担当者が4段階(A~D)で評価したものです。

2018年度の事業計画に対する学校関係者(保護者)評価

各評価項目についてご意見をいただき、その到達度を4段階(A~D)で評価していただきました。

2019年5月

評価項目	事業計画	学校関係者(保護者)評価	到達度 評価
<p>学校改革の推進</p>	<p>2019年度からの男女共学化に向け万全な準備を進めるとともに、2018年2月に公表した「福岡大学附属若葉高等学校教育ビジョン」に基づき、全校一丸となって学校改革を強力に推進し、募集定員の充足を図る。また、2022年度に予定している学校移築に向けた準備を着実に遂行する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・男女ともに中間レベルの学力で、しかも市内に通えるということ、また、高大一貫により進学の見えるところに魅力があったようです。 ・男女共学化に伴う広報活動の推進により、募集定員を大幅に上回る入学者を迎えられたことは評価出来ます。しかし校舎移転計画の白紙撤回等、やや見通しの甘さを感じられ、事前に保護者に対する十分な説明が必要かと思われました。教室配置において、3年生と1年生の教室が隣接しているため、3年生にとっては少々騒がしいとの声も聞かれます。 ・2019年度男女共学化に向けた準備を始め、学校改革の推進(教育ビジョン)による募集定員の充足は成果が見られます。2022年の移築予定等、まだ進めることも多いと思いますが、応援したいと思います。 ・2022年度予定の学校移築は中止になったが男女共学化の社会インパクトはとても大きな評価といえる。 ・男女共学となり入学者数も増えたことはとても好ましいことだったと思います。 ・過去の記憶は薄まり魅力ある学校として、保護者間・生徒間で認識されている。 ・学校移築の計画が保護者に分かりづらいが入学者が増え良かった。 ・大幅に上回った入学者に対し、短期間での学校側の体制強化や準備が必要となり、心配していました。 ・志願者数が増加したことは、良い成果だと思います。移築が白紙になったのは少し残念です。 ・募集定員の充足を図ることにおいては広報部の大成果と思います。保護者の目線から申しますと、福岡大学を目指しているご家庭がこんなに多いのだと改めて実感いたします。 ・備品の古さ・設備の古さが少々気になるようです。 ・移築が延期された事情はよく分からないので、移築が完了されるまで大所帯なので大変なのではないかと心配中です。 ・入学者数が増えたことによる設備不足がある。食堂などには入れないと聞いた。 ・オープンスクール状況から、かなりの受験生が来ることが予想出来ていただろう上に、学校移築の計画があったはずだが、結果見送りとなったことは理解出来るけれども、とても残念な気持ちが残る。 ・学校移築は中止になったのでは？ ・新入生数が在校生数を超過しているということで、益々の発展が予想され喜ばしいことですが、校内のキャパやイベントの際に不安がないか、少し心配です。 <p>A=8, B=11, C=4</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>C</p> <p>C</p> <p>C</p> <p>評価のみ</p> <p>A 2</p> <p>B 4</p> <p>C 1</p>

<p>高大一貫教育の一層の充実</p>	<p>本校の発足以来8年間にわたり本校の教育の柱としてきた高大一貫教育プログラムの検証と評価を行う。大学との連携を一層強化することによって、大学教育で必要とされる「基礎学力」や「人間力」を確実に養成するプログラムのさらなる充実を図り、本校の独自性と優位性を強化し対外的訴求力を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・若葉フォリオの内容検討で、高校と大学の連携強化の一部となり、教育の充実に繋がると思います。 ・ますます充実させていただきたい。 ・将来的に若葉フォリオをeポートフォリオに移行させる取り組みは、より多面的な自己評価が加納になるという点で是非とも推進していただきたいと思います。ただし生徒にeポートフォリオを能動的に活用させるためには、先生方のきめ細かい指導が不可欠であり、先生方のご負担の増加が少々気になります。 ・大学進学率が高くなる中で、検証や評価を実施し、教員の皆様にも研修の機会を準備下さったこと等は入試制度の変更を前に保護者の注目を集め大変かと思えます。独自性優位性は期待でもありますが、子どもたちの今後には大切なこととなりますので、今後も進めてほしいと思います。 ・大学へ出向いての講義や図書館の利用ができるので子どもにとっても良いようです。 ・大学学長の入学式、卒業式、式辞や大学教員による講話を含め、より一層の目標を生徒自ら知り得ることが出来る学習意欲を高めている。 ・大学受験が大きく変化する直前である今、生徒達にとっても保護者にとっても心強いプログラムであり、高評価。 ・高大一貫教育、今後に期待大。 ・若葉フォリオに関しては、何のために毎日記入しているのか、将来的にどう役に立つのか、を子ども達が分かっていないまま進めているように感じます。大学教員によるご講話等は我が子も興味があり、とてもありがたい試みだと思えます。 ・大学(福大)へ入ってからの学力差は変わらず…のようで、底上げは引き続き課題では。 ・大学の一般入学の学生との比較など、その後の追跡や大学側との情報交換された内容など開示されると評価しやすい。 <p style="text-align: center;">A=11, B=11, C=1</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>C</p> <p style="text-align: right;">評価のみ A 4 B 8</p>
<p>グローバル教育の基盤整備</p>	<p>2017年度に策定した「グローバル教育ビジョン」に基づき、修学旅行を海外での研修旅行に切換るとともに、海外の学校との交流協定締結を進めるなど、グローバル教育の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・海外の文化を肌で感じることは、社会に出た時に広い視野で行動出来る一助となると思います。大変画期的な実践だと思います。 ・シンガポールへの修学旅行は子どもも楽しめたみたいなので良かったと思います。初めての海外だったので、シンガポールなら安心でした。 ・修学旅行は良い刺激になったようです。 ・生徒だけでなく先生方も含めた海外校との人材交流は評価出来ます。通常の授業でも外国人の先生方を、より積極的にご活用いただくよう望みます。(英会話の授業など) 	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・シンガポールへの修学旅行においては海外の文化を共有することができ、17歳という若さで現在に不足している見識が広がっている。 ・海外での研修旅行は生徒にとっても良い経験になったことだと思います。 ・今の世の中、グローバル教育はどんどん取り入れていくべきであり良いと思う。日本以外に目を向ける人生の大きなきっかけになるだろう。 ・国際コースの中でもシンガポール修学旅行に興味がある者もいるため、トランジットで1～2泊のアジア体験をしてもいいと思う。 ・修学旅行における海外研修は大賛成です。治安の良い国を選択して下さっているので安心して参加できると思います。 ・高校でのグローバル教育は未然な子ども達には心配事や配慮も必要かと思いますが、今後も様々なプログラムへチャレンジ頂きたいと思います。またグローバルコースは留学が認められている市内で数少ない学校ですので、早い時期に情報や学校のご意見等ほしいと思いました。 ・英語圏との学校間の交流を増進していただきたい。 ・もっとネイティブの先生がいてもいいのではないかと。 <p style="text-align: center;">A=12, B=10, C=1</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>C</p> <p>評価のみ</p> <p>A 5</p> <p>B 6</p>
<p>全人教育の基盤整備と実践</p>	<p>全人教育を推進するため、正課教育の充実とともに新たな部活動の検討を含めた正課外活動の拡充と活性化を図り、生徒会活動や各種学校行事への生徒の積極的・主体的参加を推奨する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・男子が入学したことにより、これからのいろんな部活の活動に期待しています。 ・生徒会が中心となり積極的に活動していくのは大変良いと思います。理想的なことだと思います。専門の講師による講演会等、学校側のサポートもありがたいことだと思います。 ・体育祭、文化祭を見に行くことを楽しみにしている。 ・生徒が主体となるのは大事なのでそのまま進めてもらいたいです。それに合わせ先生方もうまく指導出来るようお願いします。 ・文化祭等で一人一人の意見を出すことができ、先生方も見守って頂き成長したように感じる。 ・個人的な感想ですが、部活動時の生徒間の指導など、少し困っている様子でした。(部活により男子部員への指導サポートが必要) ・体育祭、文化祭において、生徒が主体的に企画や運営を行うことは、生徒の問題設定能力やその解決能力を涵養する取り組みとして評価出来ます。また取り組みが成功するように生徒を支援するように先生方の指導する能力は素晴らしいと感じました。 ・今後も生徒会活動や文化祭、体育祭へ生徒が中心となり取り組めるよう、特に2、3年生が在籍している間に大きくなったことで薄れてしまわない様にぜひ進めてください。その為の協力へは役員も協力が必要かと感じています。 	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・活動的な子以外に浸透しているかどうか…。 ・文化祭では後援会も参加することができ、学校×家庭の連携をより深めることができた。 ・生徒会を中心とした自主性はよいが、公欠に対するフォローや、昼休みに昼食が食べられない状況などの改善を検討して頂きたい。 ・女子校であったためか、学校訪問した際に床に座り込んだり足を広げて座っていたりする生徒が目につきました。今年からは共学となったので少しはなくなるかと思いますが、そういったマナーの面も気遣って欲しいと思います。 <p>A=7, B=13, C=2, 未記入=1</p>	<p>B B C C</p> <p>評価のみ A 3 B 7</p>
<p>授業改善への取組の強化</p>	<p>生徒の主体的・能動的な学習の伸長を図るため、アクティブ・ラーニングの一層の推進を図る。特にICTを活用した授業実践のための環境整備を進め、授業改善のための研修等を強化する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ学習が良かったようです。スムーズに進みとても授業に無駄がなく、授業が分かりやすかったようです。逆におしゃべりが増えて騒がしく、空気が緩む雰囲気になる所がたまにキズ…らしい。 ・ICTを活用した授業の実践においては、生徒の学習到達度に応じた教材(コンテンツ)開発が継続的に行われる必要があると感じています。先生方のご負担を軽減させるためには、教材開発を大学と共同で実施する等の方策もあるかと思えます。 ・生徒が主体となるのは大事なのでそのまま進めてもらいたいです。それに合わせ先生方もうまく指導出来るようお願いします。 ・今やタブレットやスマホから得られる情報なしに生活しがたい位、ICTの力は素晴らしくそれを使った授業はとても充実したものになっているであろう。 ・他様でも好評のタブレット端末での授業拡大に期待。 ・大学の授業でもパソコンが必須となりつつありますので、タブレット端末を活用等、教員だけではなく生徒にも導入して欲しいです。 ・強化してほしい。ただし弊害もあるので制限もしつつ授業の改善をしてほしい。 ・指導する先生方のあり方もよく検討お願いします。 ・タブレット端末をはじめとするICTはこれからの生徒には使いこなすことが前提である世の中へなっていくと思います。ご家庭の事情で不公平だというご意見が出ないように、ぜひ学校で積極的にご利用頂きたいです。 ・生徒の習熟度や達成度のよって取り組みを評価しなければ、教員の実施満足だけではいけないと思います。 ・コースにより偏りがあるように感じます。 ・アクティブ・ラーニングではないのかと思いますが、入学時に加入した「スタディサプリ」の映像授業は良くなかったようです。結局別のものを探して活用していました。 <p>A=7, B=13, C=3</p>	<p>A A A B B B B B C C C</p> <p>評価のみ A 3 B 8</p>

<p>学校運営強化のための組織の再編と規程等の見直し</p>	<p>学校運営の強化を図るため、学校運営組織及び審議組織を見直す。これによって持続的な学校改革を機動的に遂行する。また、運営の適正化・円滑化を図るため、諸規程等を見直す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の体制と同時期に入学したため、具体的には分かりかねますが、運営は円滑であると感じます。 ・この件は保護者が評価できる項目ではないと思います。 ・大学の先生が高校の校長先生を務めることは、高大連携を強化する意味で評価出来ます。今後、高大一貫教育がさらに活性化することを望みます。 ・学校運営を色々な側面から見直されたことで学校の雰囲気や様子は変わったことを感じます。子ども達も同じく感じていると思います。 ・校長先生を大学から、教頭先生を中学から招いたとの話は、広い角度から見ることができ、更なる良き改革を視野に入れていることを感じた。 ・大学の教育職員の学校長、とてもよく機能し、教頭2名も良い。 ・柔軟な対応をお願いします。 ・学校風土には大変感謝している。特に教職員の機敏性には学びを高めている。 <p style="text-align: center;">A=11, B=11, 未記入=1</p>	<p style="text-align: center;">A A A A A B B B</p> <p style="text-align: right;">評価のみ A 6 B 8 未記入1</p>
--------------------------------	---	---	--

※ 到達度 A: 十分目標に到達している B: 目標到達にいま一步である C: 目標到達に一層の努力が必要である D: 目標到達には程遠い

2018年度の取り組みに対する学校関係者(保護者)評価

各評価項目に関するご意見を記入いただき、その到達度を4段階(A～D)で評価していただきました。 2019年4月

評価項目	目 標	学校関係者(保護者)評価	到達度 評 価
教 務 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・学習環境を整え、積極的に学習に取り組む姿勢を育み、基礎学力を向上させる。 ・生徒の主体的・協働的・探求的な学びのため、教員個人の努力だけではなく、各教科や各コースの研修を深め、チームによる、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ITC教室以外でもプロジェクターが利用出来るように施設が整備されつつあることは評価出来ます。またITC教材の研修会が予定されていることも学校全体としてITC教育を推進する意味で評価出来ます。一方、ITC教育には「生徒自身の考える力が低下する」「活字離れが進む」等の弊害も指摘されていますので、生徒の目線に立った教材開発が望まれます。 ・基礎学力の向上やチームによるアクティブ・ラーニングを取り入れた授業には大変賛成です。特に現代の子ども達は成績優秀ですが、適応力・想像力等が弱いように感じます。先生方のチームによる立体的な指導に大変期待しています。 ・若葉フォリオの活用の指導も大変だと思いが、粘り強く指導して頂いている。 ・タブレットを使った学習など、すごく良いと思います。ただ今回の中間テスト1週間前なのにテスト範囲がまだ分かっていない教科があるのは残念で、子どもも困っています。 ・先生方もスキルアップをしていただいて質の高い授業を提供して下さりありがたいこととございます。 ・生徒の学力向上につなげてほしい。 ・同じコース内でも教え方に違いがあるようです。先生によって進度に差があることもあるようなので是正していただきたい。 ・親としては一番学校に力を入れて頂きたい4項目(教務・進路指導・生徒指導・中退いじめ防止)です。先生達の熱心な教育姿勢は学生主任先生の毎月のお手紙等で知らせて頂き、本当に頭が下がる思いです。子ども達がそれに応えられるように私達保護者がそっと援助しなくては…と思っています。 ・学校全体の話ではないがと思うが、勉強したい生徒もいるが、先生の方が真面目にしない生徒に注意することを諦めて騒がしいなか平然と授業を進め、頭に入らない嘆きを聞き残念だった。 <p>A=5, B=18</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>評価のみ A 3 B 11</p>
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・入試改革を見据え多様化していく入試状況に対応しつつ、変わりゆく社会で生き抜く力を養う。 ・キャリア教育の観点から生徒一人一人に対してきめ細かな進路指導を行い、コースのコンセプトに基づいたそれぞれの目標とする進学先の合格を目指す。 ・現役による国公立大学の合格者数25名、また難関私大への合格者数の増加を目指す。全体的には福岡大学を含めた四年制大学への進学率増加を目指す。 ・自分の考えを表現できる力や文章力をつけるための長期的な取り組みを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・早期の目標設定が大切で、受験意識を常に持つ。小論文がとても大切なので、1年生からの指導をお願いします。 ・おかげさまで我が子もやりたい仕事から学部を考えているように見える。 ・低学年からのキャリア教育や小論文指導は、大学入試一辺倒の進路指導に留まらない取り組みであり、評価出来ます。特に簡潔で分かりやすい文章作成能力は、社会人になってから最も求められるものであり、今後さらに小論文指導のカリキュラムが充実されることを期待しております。 ・福大に入れればと考えていた親とは違い、学校から色々な大学の情報を仕入れるよう促されていく状況から、県外の大学に目を向けられました。夢も変わり目指すものが見えてきているようです。 ・早いうちから進路の指導をして下さっている。先輩方の話を聞く事が、心に響くと実感している。 ・生徒自身が関心ある職業を目指すためには、家庭での関わりも重要と考えています。保護者の知識向上の目的で各コース毎に進路説明会をお願いしたいと思います。 ・自己PRは将来様々な面で関わってくると思います。表現力・文章力を備えた上で、自分で自信が持てることがあれば人と対面した時に力が発揮出来るのではないかと思います。褒めて伸ばして下さい。 ・本人達が後悔しないようよろしくお願いします。 	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>未記入</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・低学年のうちのキャリアガイダンスは子ども達が耳を素直に傾けられる先輩・著名人・先生等、色々な方を選んで良いように思います。またガイダンスの形は様々で何回あってもいいように思います。先生方よりたくさん情報を得て、考えるチャンスをたくさんあげて欲しいと思います。 ・特進クラスの個人間のレベルの差がある中での授業の進め方において、どのレベル(偏差値)で授業を行っているのかがよく分からないです。 ・1年次より積極的に進路について考える時間がある。 ・国立大学は目標の半数以下の12名と未達。福大への進学も143名という事象を踏まえ、学習活動と授業改革の必要性を問う。 <p>A=7, B=14, C=2</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>C</p> <p>評価のみ</p> <p>A 3</p> <p>B 8</p> <p>C 1</p>
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣を確立させる。 ・自尊感情を高めるための諸活動(生徒会・行事・常時活動等)を活性化させる。 ・問題行動・規則違反等を未然に防ぐ為に、日常の生徒指導を徹底すると共に、教員間の連携を更に深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校指導は先生方への負担となっていないでしょうか。新聞に教員の働き方改革は困難と載っていました。 ・マナー指導のみならず、登下校指導や昼休み校内巡視など、先生方が生徒指導に多大な時間を費やしていることが伺われ誠に感謝しております。また問題が発生した場合に備え、生徒指導部と学年との体制が構築されている点も評価出来ます。一方で校則違反のチェックがやや厳しすぎるのではとの声もありますので、今後ご配慮頂ければと思います。 ・しっかりと指導してくださっていると感じます。 ・隣の学校に比べ校則は厳しいと聞いておりましたが、娘自体が特に厳しいとは思っておらず、ルールの中で良い生活習慣を身に付けていると思う。 ・一人一人の生徒に常に言葉かけをお願いします。(あなたに関心を持っているのだよ)という意識があると、子どもながらに嬉しいです。 ・難しい年頃の子供たちだと思うが、親身になり指導して下さっている。まゆげを剃っていないのに剃ったと言われ落ち込んでいた。 ・いつも目を配って頂きありがとうございます。生徒数が大変増え、目が届くのだろうか、若葉らしさは残るのだろうか等、不安も多いことと思います。色々な取り組みへ皆、協力し進めていけるよう情報交換も必要と思います。 ・諸活動では挨拶や清掃活動の徹底について十分認識が高まりつつある。教員の生徒指導については問題がある。風紀指導では不平等な対応が目立つ。 ・携帯電話に関する違反が4月には時々あったと思いますが、近頃は減少してきたのでしょうか。生徒たちからもあまり聞きません。SNS関連は今後も注意していただきたい。 ・活動の場に参加しているのは仲良しのお友達がいるか、よほどの興味があれば…という生徒だと思います。目立つのが嫌だからとか、孤立している子は放置されている気がします。 ・1年生の人数が多い分、きちんと対応しないと後で困ることになるので、きっちりお願いします。 ・テストのカンニングや携帯の教室持ち込みなど、ルールの守れない生徒が大勢いること、また教員が把握出来ていないことなど、努力して頂きたい。 <p>A=8, B=12, C=2, D=1</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>C</p> <p>C</p> <p>D</p> <p>評価のみ</p> <p>A 4</p> <p>B 7</p>

<p>中退防止 いじめ防止</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 基本的な生活習慣を確立させる。 • 自尊感情を高めるための諸活動(生徒会・行事・常時活動等)を活性化させる。 • 問題行動・規則違反等を未然に防ぐ為に、日常の生徒指導を徹底すると共に、教員間の連携を更に深める。 	<ul style="list-style-type: none"> • 入学した時の生徒数でそのまま卒業する時がくればいいと思います。 • いじめについて悪い話はあまり聞かない。小さな問題はあるかもしれませんが、おおむね良好なのは。 • 退学者が減少しているのは学校生活に行き詰まった生徒と向き合ってきた先生方の努力の結果かと拝察致します。ただし心因性の問題は先生のお力だけではどうしようもない部分もあるかと思っています。 • クラスのチームワークがとてもよいようで、いじめなどはないであろう様子が伺えます。 • アンケート等いち早く察知して保護者と連携を続けて頂きたい。 • スクールカウンセラーとの連携はどのようにされていますか。 • ”いじめ”については各個人の認識が違うので難しいですが、体の傷よりも心の傷の方が重く鋭いと思います。やる側の子は大人の前では完璧に良い子を演じられますので先生方にも分かりにくいと思います。 • 転退学者が10名いたことはとても残念です。この問題は永遠のテーマのようなもの、引き続き生徒たちに目を配って頂きたいと思います。 • 「親には言えない、こわいいじめがある」「陰湿すぎる」と言っています。心配です。 <p>A=8, B=12, C=2, D=1</p>	<p>A A A B B B C D 評価のみ A 4 B 9 C 1</p>
<p>保健指導 特別教育活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 学校生活をより豊かで充実し活気あるものとする為に、学校行事への積極的な参加を促し、生徒主体の運営ができるように努力する。 • 運動部の更なる躍進と、文化部の活性化を図る。 • 健康の維持増進と疾病予防の大切さを理解させ、日々の健康管理の姿勢を育成する。 • 部活動への加入者が有意義な活動ができるように努力する。 • 火災・地震等緊急災害時に冷静に判断し安全に行動できる訓練をする。 	<ul style="list-style-type: none"> • 体育祭、文化祭共に子ども達为一体となり成功出来たのは素晴らしいと思います。今年から生徒数も増えた分、保護者もマナーを守らなければいけないと思います。 • 全学的な保健指導(インフルエンザ予防)、防災訓練、外部講師による講演会などは、生徒に問題意識を根付かせる点で評価出来ます。 • 学校行事は生徒主体で運営されており素晴らしいと思いました。 • 体育祭、文化祭はとても充実したもので良かったと思います。また部活動においても好成績をおさめた部活も多々あり、先生方にご指導のおかげだと思っています。 • 各行事が生徒主体で運営されているのを感じてとても良かった。文化祭では後援会から焼きそばや手作り品を出したが、準備人員がかなり少なく、数回行っても間に合わず、仕事を持ち帰って家で作ったりと頑張った。部活は今年も更なる成長が期待出来そう。 • 体育祭、文化祭は活気のあるものでした。防災訓練もきちんと行って頂いている。 • 保護者、役員や評議員の協力は保護者の満足感にも繋がると思います。生徒数増加に伴い、行事がスムーズに実践出来るか心配です。 • 保健指導については特に気になることはありません。ここで健康管理に基づいての意見ですが、学食は塩分が強すぎるのではないかと思います。毎日利用しているので心配です。 • 人数が増えた分、緊急災害時の判断は大切になってくるので、訓練のみでなく知識もつけた方がよいのでは？ • 今年の盛り上がりは今後にとっても重要だと思います。それぞれの行事や部活の活性化に期待しています。 • 意見が出たが体育祭において例年通りの体育館では無理がある。狭いと思う駐車場も問題である。 <p>A=11, B=11, C=1</p>	<p>A A A A A B B B B C 評価のみ A 6 B 6</p>

<p>研 修</p>	<p>・「新教育ビジョン」の実現のために教員の資質・能力の向上を図る。</p>	<p>・先生方もいろんなことが導入されることにより、学習していかないといけないのは大変ですね。頑張ってください。</p> <p>・他校への派遣、外部講師による講演会、学外研修等は先生方のFD活動にも繋がるものであり、評価できます。その反面、先生方のご負担が増えるばかりではないかと案じております。</p> <p>・ありがとうございます。</p> <p>・ITC導入に伴い、また男女共学になることに伴い、その都度先生方がしっかりと研修を受けていることは評価出来ます。今後も更なる改革に期待出来ます。</p> <p>・先生の向上はぜひお願いします。</p> <p>・先生方におかれましては日々のお仕事と授業の準備と大変なこととはお察しますが、専任・副教員等、上手に分担され研修等へ参加される機会を持って欲しいと思います。また研修報告や進路情報等、先生もタブレット等で共有・管理して負担を減らしてあげて欲しいです。</p> <p>・引き続き期待している。</p> <p>A=9, B=14</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>評価のみ A 5 B 11</p>
<p>広 報 情報発信</p>	<p>・各コースの定員を上回る入学者を確保する。</p> <p>・入学者400名。</p> <p>・受験生 専願260名、前期600名、後期30名(歩留率0.2~0.25を想定)。</p>	<p>・これからも生徒数が増えて、いろんな活動で若葉高校の名前が出てくるようになることを期待しています。</p> <p>・福岡大学の推薦枠の拡大を強く希望します。高大一貫は貴重です。特に福大は理系の学部もあり魅力的です。</p> <p>・福岡大学との高大連携や男女共学化によって貴校の注目度は高まっております。今後もアドミッションポリシーや入試制度をより分かりやすく情報発信されることを望みます。</p> <p>・若葉高校の魅力をしっかり伝えられていると思います。</p> <p>・福岡大学への附属推薦枠拡大と共に男女共学の認識が高まることで定員数を大幅に上回ることができた。</p> <p>・入学者数が増えたことで広報活動は成功だと思います。</p> <p>・目標を上回るどころでない、ニュースにもなる入学希望者の数に驚きました。受け入れたからには様々な行事等に不備がないように細かなところまで改善していく必要もあると思う。</p> <p>・関東の大学の指定校推薦が増えると嬉しい。</p> <p>・来年度の入学者数も上回るのであれば、ハードソフト両面の対策をお願いします。</p> <p>・今年は多すぎです。</p> <p>・来年以降は適正な新生生の人数になるようにお願いします。</p> <p>A=17, B=4, C=2</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>C</p> <p>評価のみ A 10 B 1 C 1</p>

※ 到達度 A: 十分目標に到達している B: 目標到達にいま一步である C: 目標到達に一層の努力が必要である D: 目標到達には程遠い